

NPO法人日本アイバンク運動推進協議会だより

2020年7月31日

巻頭言：理事長のご挨拶
出口 喜男



日頃より、会員の皆様には、アイバンク運動推進にご理解ご協力を賜りありがとうございます。

前年度より、新型コロナウイルス感染拡大での困難な中、アイバンク運動推進活動に努めていただき、感謝申し上げます。

また、今年度の第43回全国大会を鹿児島市で予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染が全国的に広がっている為、今回は誠に残念ですが、中止とさせていただきますと存じます。

今後も皆様とともにアイバンク運動の更なる普及に向けて活動を推進していく所存でございます。何卒よろしくご指導、ご協力をお願い致します。

■ 日本アイバンク運動推進協議会

第42回全国大会（京都大会）開催

～愛の光 未来に向けて～

第36回アイバンクシンポジウム



京都大会会長 アイバンク愛の光基金管理会前理事長
森井 士朗 様

前年度、昨年になりますが、令和元年9月29日（日）、京都市での全国大会を、アイバンク愛の光基金管理会（ライオンズクラブ国際協会335-C地区）

のアイバンクシンポジウムとの同時開催により、開催することができました。

当日は、京都府立医科大学教授外園千恵先生を座長に、同大学教授木下茂先生を講師に迎え「角膜移植とアイバンクについて」、三菱京都病院腫瘍内科部長吉岡亮先生による「ホスピスとアイバンクをつなぐ」のご講演、また、社会福祉法人 西陣健康会堀川病院副看護部長高野佳子先生による「角膜提供を希望される患者さんに関わって」など、角膜移植の現場からの貴重な講話に加え、記念コンサート（ピアノ・ソプラノ）など、盛りだくさんの内容で、素晴らしい研修会となりました。



ピアノ 光浦栄理子様 ソプラノ 谷恵美子様 木下 茂先生

大会のお世話をいただきました、ライオンズ335C地区、アイバンク愛の光基金管理会の皆様にご心より感謝申し上げます。

■ 土屋 誠司様（前理事長）のご訃報

当協議会の前理事長、土屋誠司様（沼津ライオンズクラブ）が、本年5月28日にご逝去されました。（享年91）ご自身も角膜提供をなされました。アイバンク運動推進協議会では、4年間理事長として努められ、第32回全国大会（沼津市）まで、ご尽力いただきました。理事長を退かれてからも、故勸山最高顧問とともに、アイバンク運動に邁進されていたと伺いました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに会員の皆様にご報告いたします。

尚、土屋前理事長のご功績を偲び、ご略歴とともに、沼津ライオンズクラブ60周年記念誌に掲載された挨拶文より一部をご紹介します。

土屋 誠司 前理事長 略歴

ライオンズクラブ国際協会 334-C 地区名誉顧問
沼津ライオンズクラブ会員

・1990年～1991年 沼津ライオンズクラブ会長

・2004年～2005年 ライオンズクラブ国際協会
334-C地区ガバナー

・2005年12月～2009年10月
日本アイバンク運動推進協議会
理事長

・2008年6月～2011年6月
静岡県アイバンク 監事

◆「沼津ライオンズクラブチャーターナイト 60周年を迎えて」より一部抜粋 334-C地区名誉顧問 土屋 誠司



…奉仕活動では一生涯をアイバンク運動に捧げた今は亡き勸山ライオンの熱意が沼津ライオンズクラブのメインアクトのアイバンク運動となり、沼津から全国のアイバンクへ広がって行き、「アイバンクの沼津か、沼津のアイバンクか」と言われる由縁となりました。

またアイバンクのご縁で姉妹クラブとして倉敷ライオンズクラブとおつきあいしております。

『日本ライオンズ半世紀の航跡』では沼津ライオンズクラブ30周年記念事業で中国へのアイバンクの灯をともし、中国にアイバンク運動を広めた事を高く評価し伝えております。…

以下省略

※1990年中国で初めて「浙江省援助盲人復明協会」が設立。沼津ライオンズクラブ30周年事業「中国にアイバンク運動の灯を」が実現しました。

◇沼津5ライオンズクラブ様より、
静岡新聞に掲載(執筆)された土屋様の記事を送っていただきました。添付させていただきます。

■開眼者の言葉

角膜提供により、21年前に開眼された茨城県在住の方より、お手紙を頂戴しました。
ご紹介させていただきます。

～開眼者より～

爽やかな6月の風…

円錐角膜という原因不明の眼の病気になり、角膜移植手術をしてから21年が経ちました。

平成11年6月9日に水戸市にある、眼科専門病院にて手術を受けました。拒絶反応がありましたが、おかげ様で、コンタクトレンズが合い1.0まで見えるようになりました。ここまで良くなったのも手術をしてくれた、院長先生、A先生の技術、また、医学の進歩だと思います。

そして何よりも、角膜を提供して下さった70代の男性のおかげです…

提供して下さった方は、アイバンクに登録されボランティア活動をしていた方だそうです。

私は本当に、今感謝の念でいっぱいです。提供者の方の目は、私の右目となり、光を感じ生きています。

人生は、一度しかありません。これからの人生を前向きに焦らず頑張ろうと思います。

そして角膜移植への理解が深まり献眼の数が増える事を願い、仕事にボランティア活動に頑張ろうと思います。

最後に、「お互いががんばりましょう」と謙虚な院長先生をはじめ私をいつも励ましてくれるスタッフの方々、そして私を支えてくれる家族や友人たちに感謝の気持ちを伝えたい。ありがとうございます！（52歳 男性 自営業）